

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 篠崎智子
所属 (School) 生命環境科学域 応用生命科学類
学年 (Grade) 4 年

留学先 (Name of overseas institution)
Université de la Rochelle(フランス/ラ・ロシェル
大学)

留学期間 (study abroad period)
2019/5/13~2019/6/18

記入日 (Date) 2019/6/21

留学レポート Study Abroad Report

【留学の経緯】

私は理系の専攻とフランス語の継続的な学習の両立を夢見て本学に入学しましたが、カリキュラム上フランス語の講義を継続して受けることが難しいことが判明し、挫折したという経験があり、フランスへの憧憬が強くありました。また、本学ホームページにて、語学研修以外の留学が存在することを知り、いつか研究留学をしてみたいと考えていました。私が所属する研究室はフランスのラ・ロシェル大学から毎年交換留学生を受け入れています。これまで本研究室から学生が派遣されたことはありませんでした。そのような背景から、指導教官の東條先生からインターンシップの話を持ち掛けていただき、約 1 か月という短期間ですがつばさ基金を利用してインターンシップを行う運びとなりました。写真は研究室の近くの大学の建物です。



【現地での研究室生活】

派遣先の研究室のスタイルは本学で所属している研究室とはかなり異なっていました。研究室ごとの部屋はなく、大きな実験棟の一つのフロアを複数の研究室で共有し、5 人未満ほどの小さな学生室が実験室の間に分散していました。そのため、研究室というよりは研究グループといった方が適切かもしれません。研究室の枠を超えた一体的な関係が築かれており、会話が絶えず開放的な印象を受けました。また、研究グループの内に 5, 6 人ほどのプロジェクトチームが複数あり、それぞれのテーマが密接に関連しあっており、お互いに協力しアドバイスしあいながら論文執筆に向けて実験を行っていました。

私はこのインターンシップでがんの進行に関わる酵素をターゲットにした抗がん剤の開発に携わりました。私が本学で所属している研究室での研究テーマとまったく共通点がなく前提となる知識が一切なかったため、実験と並行して関連する論文を読みながら実験の意味や原理を理解することに努めました。プロジェクトチームのひとつに参加し、抗がん剤の酵素活性調査、細胞毒性の評価、ナノ薬の合成条件の最適化のための多数の実験を行いました。特殊な機械やプログラムを使用するため、最初は学生さんに付き添っていただき操作を行っていましたが、最終的には実験を私一人に任せてもらえるまでになりました。また、ただ実験するだけではなく、プロジェクトチームごとで行われるミーティングに参加して、1 週間の間に行った実験の進捗を発表したり、日本や大阪、自分の研究テーマについて軽くプレゼンテーションしたりと発信する機会も複数いただきました。



多くの学生が大学近くに下宿しているため、早い人は 8 時から研究室にいます。私は 9 時半から 5 時をコアタイムとして設定していました。日本の研究室と違うと感じたのは、実験室にこもりきりではなく、昼休みは外に行ってゆっくりしたり、スポーツをしたりとメリハリをつけて研究している方が多かったことです。木曜夜は研究室の Happy hour ということで旧市街の近くにあるバー（写真左）や brasserie(後述)に連れていっていただき、現地の方の過ごし方を味わうことができました。

【言語面での苦労】

ラ・ロシェルはパリのような都市部とは異なり、英語を流ちょうに話す人が少ない地域です。フランス語しか話せない方や英語が苦手な方も多く、スーパーや旧市街でも基本フランス語でしか表記がなかったため、言語面で少し苦労しました。ただ、料理の名前などの多少の単語や、基礎的な会話表現を覚えて行ったので、予備知識なしの状態よりは円滑に物事が進んだように思います。拙いフランス語でも少し通じるだけでちょっとした会話が楽しく、モチベーションアップにつながりました。

研究室はフランス人学生が多数を占めているため、英語を話せる方が多いのですが、主な使用言語はフランス語。研究室内で盛んに交わされる会話の内容は一切わからず、単語程度しか聞き取れませんでした。継続してもっとしっかり勉強しておけば、と後悔したのですが、それでも Bon appétit! (食事前に使う表現)や Ça va?(How are you?にあたる表現)などの簡単な会話を通してフランス語によるコミュニケーションを試み、こちらからは数字の言い方や乾杯など簡単な表現を教え、交流を深めました。

研究室では英語でコミュニケーションをしていたのですが、語学力の不足が浮き彫りになり、かなりショックを受けました。リスニングやリーディングには少し自信があり、渡航前から英語でメールのやり取りをしていたので、英語は問題ないと過信していたのですが、言いたいことの1割も話すことができなかったのです。ミーティングのプログラムの発表では文章を組み立ててしゃべることができず、学生さんに毎回言葉を補ってもらった始末。英語を使う機会の少なさ、スピーキングを鍛えることの難しさを実感しました。

【休日の過ごし方】

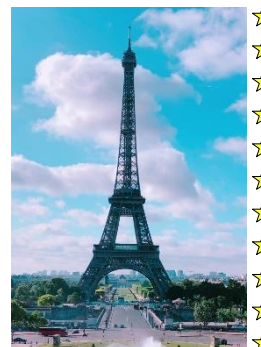
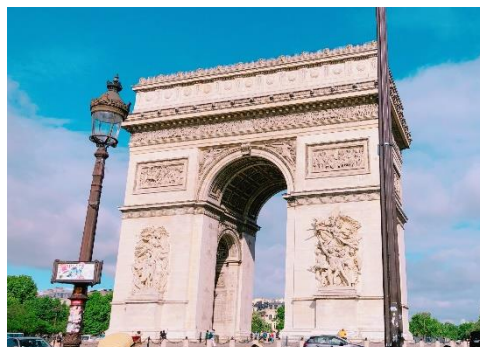
土日祝日は研究室がお休みなので、ほぼ毎週末、旧市街に足を運んでいました。日本ではマイナーですが、ラ・ロシェルは大西洋で最も美しい港町といわれており、フランス人に人気のバカンスの場所だそうです(写真右)。

Tour Saint-Nicolas をはじめとする3つの塔や街の入り口にあたる大きな時計塔、伝統的なカフェなどたくさんおすすめしたい場所があるのですが、その中でも Cathédrale Saint-Louis は初めて訪れた感動が忘れられず何度も足を運んだ特別な場所です。日曜日にはほぼ人がなく、ほぼ一人きりの状況でステンドグラスを見上げて静かに心を落ち着ける時間は今思うととても贅沢で貴重だったと感じています。

全体としてゆったりした時間が流れていて気が付けば夕方、ということもしょっちゅうでした。バカンスシーズンではなかったからかもしれませんが、観光を楽しむというよりはただベンチや海辺に座って景色を眺めたり、ジョギングしたり、食べ歩きしたりと自分なりの時間を過ごす人が多いように感じました。土曜日はあちこちで服のフリーマーケットが行われており、観光客だけでなく現地の方もショッピングを楽しんでいました。しかし、観光の中心である旧市街であっても日曜日は多くの店舗が休みであったり営業時間がかなり短めであったりと、日本とは休日の考え方や過ごし方が異なっているように感じました。

フランスは美食の国というだけあってたくさんのおいしい飲食店がたくさんありました。ただ、食事情が日本とは少し異なっており、道路に面してたくさんの椅子とテーブルが並び、ドリンクだけで長時間くつろいでいる人々に埋め尽くされているところを見たときはかなり面食らいました。しかし、クレープなら Crêperie、軽食の出る飲み屋なら brasserie など、提供しているサービスの種類を必ず大きく掲示しているため、ある程度メニューを推測でき、店を選びやすくかなり親切に感じました。

最後の2日間はパリに滞在し、メトロを使って市内を観光しました。6月という観光シーズン前であるにもかかわらずたくさんの観光客でにぎわっていました。短い滞在日数だったので、行きたいところを絞って観光しました。凱旋門やエッフェル塔などの有名どころを訪問した後、軍事博物館(アンヴァリッド)に行き、さまざまな武器や軍服のほか、皇帝ナポレオン一世の棺を見ることができました(写真左下がアンヴァリッド)。



A decorative border of yellow stars surrounds the text. The stars are arranged in a rectangular frame, with some stars appearing slightly larger or more prominent than others, creating a festive and celebratory atmosphere. The stars are positioned along the top, bottom, left, and right edges of the page, framing the central text area.

【留学に興味がある方へ】

海外への関心があれば、どんなことでも国際交流センターの方や指導教官に相談することが渡航への一番の近道です。意欲さえあれば留学や海外派遣は可能です。語学力、金銭面も気になるところですが、一番重要なのは本人の意志です。留学と聞くとオーストラリアやアメリカなど英語圏がまず思い浮かびますが、英語が通じる国も多いのでそこで選択肢を狭めてしまうのはもったいないと思います。また、研究留学として海外に行くときに自分の専攻、卒論のテーマと全く関係ない新しい分野をてらいなく学べるのは学域生ならではのメリットだと思うので、院生になってからと先送りにせず積極的に行動してほしいです。

【まとめ】

このインターンシップで学んだことは、どんなに先行きが不透明でも現地についてしまえば何とかなるということと他人を頼ることの重要性です。私の場合、かなり早急に派遣が決まったこともあり準備期間がほぼない中、ちょっとしたトラブルもあり、渡航直前はかなり不安を感じていました。結果として、指導教官や府大の担当者の方々、現地の教授、PhDの方などたくさんの方々のサポートがあり、大きなトラブルもなくインターンシップを終えることができました。自分一人で解決できないことがたくさんあるのは当然です。そのようなときは思い切って周囲に相談して頼ることも選択肢の一つだと強く思います。

おそらくこのインターンシップで行ったことや学んだ技術、知識を日本での研究にはそのまま活かすことは難しいと思いますが、この経験は日本に居続ければ決して得られなかったであろうものです。たくさん決断し、行動した積み重ねの結果が、いつか過去を振り返ったときいい経験であったといえるよう、このインターンシップを忘れず目の前の課題に取り組んでいこうと思います。

A decorative border of yellow stars surrounds the text. The stars are arranged in a rectangular frame, with some stars appearing slightly larger or more prominent than others, creating a festive and celebratory atmosphere. The stars are positioned along the top, bottom, left, and right edges of the page, framing the central text area.

【留学に興味がある方へ】

海外への関心があれば、どんなことでも国際交流センターの方や指導教官に相談することが渡航への一番の近道です。意欲さえあれば留学や海外派遣は可能です。語学力、金銭面も気になるところですが、一番重要なのは本人の意志です。留学と聞くとオーストラリアやアメリカなど英語圏がまず思い浮かびますが、英語が通じる国も多いのでそこで選択肢を狭めてしまうのはもったいないと思います。また、研究留学として海外に行くときに自分の専攻、卒論のテーマと全く関係ない新しい分野をてらいなく学べるのは学域生ならではのメリットだと思うので、院生になってからと先送りにせず積極的に行動してほしいです。

【まとめ】

このインターンシップで学んだことは、どんなに先行きが不透明でも現地についてしまえば何とかなんとということと他人を頼ることの重要性です。私の場合、かなり早急に派遣が決まったこともあり準備期間がほぼない中、ちょっとしたトラブルもあり、渡航直前はかなり不安を感じていました。結果として、指導教官や府大の担当者の方々、現地の教授、PhDの方などたくさんの方々のサポートがあり、大きなトラブルもなくインターンシップを終えることができました。自分一人で解決できないことがたくさんあるのは当然です。そのようなときは思い切って周囲に相談して頼ることも選択肢の一つだと強く思います。

おそらくこのインターンシップで行ったことや学んだ技術、知識を日本での研究にはそのまま活かすことは難しいと思いますが、この経験は日本に居続ければ決して得られなかったであろうものです。たくさん決断し、行動した積み重ねの結果が、いつか過去を振り返ったときいい経験であったといえるよう、このインターンシップを忘れず目の前の課題に取り組んでいこうと思います。

A decorative border of yellow stars surrounds the text. The stars are arranged in a rectangular frame, with some stars appearing slightly larger or more prominent than others, creating a festive and celebratory atmosphere. The stars are positioned along the top, bottom, left, and right edges of the page, framing the central text area.

【留学に興味がある方へ】

海外への関心があれば、どんなことでも国際交流センターの方や指導教官に相談することが渡航への一番の近道です。意欲さえあれば留学や海外派遣は可能です。語学力、金銭面も気になるところですが、一番重要なのは本人の意志です。留学と聞くとオーストラリアやアメリカなど英語圏がまず思い浮かびますが、英語が通じる国も多いのでそこで選択肢を狭めてしまうのはもったいないと思います。また、研究留学として海外に行くときに自分の専攻、卒論のテーマと全く関係ない新しい分野をてらいなく学べるのは学域生ならではのメリットだと思うので、院生になってからと先送りにせず積極的に行動してほしいです。

【まとめ】

このインターンシップで学んだことは、どんなに先行きが不透明でも現地についてしまえば何とかなんとということと他人を頼ることの重要性です。私の場合、かなり早急に派遣が決まったこともあり準備期間がほぼない中、ちょっとしたトラブルもあり、渡航直前はかなり不安を感じていました。結果として、指導教官や府大の担当者の方々、現地の教授、PhDの方などたくさんの方々のサポートがあり、大きなトラブルもなくインターンシップを終えることができました。自分一人で解決できないことがたくさんあるのは当然です。そのようなときは思い切って周囲に相談して頼ることも選択肢の一つだと強く思います。

おそらくこのインターンシップで行ったことや学んだ技術、知識を日本での研究にはそのまま活かすことは難しいと思いますが、この経験は日本に居続ければ決して得られなかったであろうものです。たくさん決断し、行動した積み重ねの結果が、いつか過去を振り返ったときいい経験であったといえるよう、このインターンシップを忘れず目の前の課題に取り組んでいこうと思います。

A decorative border of yellow stars surrounds the text. The stars are arranged in a rectangular frame, with some stars appearing slightly larger or more prominent than others, creating a festive and celebratory atmosphere. The stars are positioned along the top, bottom, left, and right edges of the page, framing the central text area.

【留学に興味がある方へ】

海外への関心があれば、どんなことでも国際交流センターの方や指導教官に相談することが渡航への一番の近道です。意欲さえあれば留学や海外派遣は可能です。語学力、金銭面も気になるところですが、一番重要なのは本人の意志です。留学と聞くとオーストラリアやアメリカなど英語圏がまず思い浮かびますが、英語が通じる国も多いのでそこで選択肢を狭めてしまうのはもったいないと思います。また、研究留学として海外に行くときに自分の専攻、卒論のテーマと全く関係ない新しい分野をてらいなく学べるのは学域生ならではのメリットだと思うので、院生になってからと先送りにせず積極的に行動してほしいです。

【まとめ】

このインターンシップで学んだことは、どんなに先行きが不透明でも現地についてしまえば何とかなんとということと他人を頼ることの重要性です。私の場合、かなり早急に派遣が決まったこともあり準備期間がほぼない中、ちょっとしたトラブルもあり、渡航直前はかなり不安を感じていました。結果として、指導教官や府大の担当者の方々、現地の教授、PhDの方などたくさんの方々のサポートがあり、大きなトラブルもなくインターンシップを終えることができました。自分一人で解決できないことがたくさんあるのは当然です。そのようなときは思い切って周囲に相談して頼ることも選択肢の一つだと強く思います。

おそらくこのインターンシップで行ったことや学んだ技術、知識を日本での研究にはそのまま活かすことは難しいと思いますが、この経験は日本に居続ければ決して得られなかったであろうものです。たくさん決断し、行動した積み重ねの結果が、いつか過去を振り返ったときいい経験であったといえるよう、このインターンシップを忘れず目の前の課題に取り組んでいこうと思います。

A decorative border of yellow stars surrounds the text. The stars are arranged in a rectangular frame, with some stars appearing slightly larger or more prominent than others, creating a festive and celebratory atmosphere. The stars are positioned along the top, bottom, left, and right edges of the page, framing the central text area.

【留学に興味がある方へ】

海外への関心があれば、どんなことでも国際交流センターの方や指導教官に相談することが渡航への一番の近道です。意欲さえあれば留学や海外派遣は可能です。語学力、金銭面も気になるところですが、一番重要なのは本人の意志です。留学と聞くとオーストラリアやアメリカなど英語圏がまず思い浮かびますが、英語が通じる国も多いのでそこで選択肢を狭めてしまうのはもったいないと思います。また、研究留学として海外に行くときに自分の専攻、卒論のテーマと全く関係ない新しい分野をてらいなく学べるのは学域生ならではのメリットだと思うので、院生になってからと先送りにせず積極的に行動してほしいです。

【まとめ】

このインターンシップで学んだことは、どんなに先行きが不透明でも現地についてしまえば何とかなんとということと他人を頼ることの重要性です。私の場合、かなり早急に派遣が決まったこともあり準備期間がほぼない中、ちょっとしたトラブルもあり、渡航直前はかなり不安を感じていました。結果として、指導教官や府大の担当者の方々、現地の教授、PhDの方などたくさんの方々のサポートがあり、大きなトラブルもなくインターンシップを終えることができました。自分一人で解決できないことがたくさんあるのは当然です。そのようなときは思い切って周囲に相談して頼ることも選択肢の一つだと強く思います。

おそらくこのインターンシップで行ったことや学んだ技術、知識を日本での研究にはそのまま活かすことは難しいと思いますが、この経験は日本に居続ければ決して得られなかったであろうものです。たくさん決断し、行動した積み重ねの結果が、いつか過去を振り返ったときいい経験であったといえるよう、このインターンシップを忘れず目の前の課題に取り組んでいこうと思います。